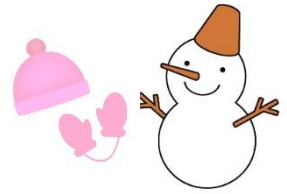




■■ 令和2年1月31日（金）～2月11日（火・祝） ■■

雪まつり、つど一む会場に“栄東の雪像”輝く！



● ウェルカム雪像は栄東の冬の風物詩に



今年も「栄東地区子ども未来会議」（代表：永渕宏 栄東連合町内会長。58 団体で構成）は、第71回さっぽろ雪まつりのつど一む会場にウェルカム雪像を設置しました。

新型コロナウイルスの流行で今回の来場者数は44万6千人に減少しましたが、この雪像は来場者が必ず立ち止まって記念撮影するほど、つど一む会場に無くてはならない存在になっています。「栄東の雪像、ここにあり」と言えるほど、冬の風物詩として定着したと言えます。

この事業には、延416名もの連合町内会や単位町内会の役員、青少年育成委員会、地元企業、小学校などの方々に参加いただきました。そのお一人おひとりの力が、温かい「おもてなしの心」として結集され、雪まつりの来場者からの高い評価につながっています。

●小学生の良い思い出づくりにも

雪像づくりでは、小学生も主役です。1月29日には栄町小の3年生57名が参加して中雪像の「招き猫」と「ピカチュウ」の間に飾る小雪だるま101体を制作。雪だるまの表情は、どれも個性豊かで、気温や降雪でも表情を変化します。海外客からは、可愛い雪だるまに「キュート！」という歓声があがっていました。来場者には記念撮影の人気スポットとして、また雪だるまづくりを担う小学校からは子どもたちの貴重な体験と良い思い出になると大好評をいただきました。



●“ありがとう”に思わずにっこり

地下鉄栄町駅では、英語、中国語、韓国語を加えて新調した「ようこそ栄町へ」という横断幕を掲げて会期中延48名の連合町内会役員、青少年育成委員などが来場者を歓迎しました。



地下鉄改札口前で訪れる観光客などに「つど一む会場のシャトルバスは2番出口を出たところですよ」「Shuttle bus stop is just out of Exit 2」など道案内をして会場へと誘導します。

毎日午前9時半から午後2時半まで、4人のメンバーが30分交代で従事しました。地下鉄駅構内とは言え、外部からの冷気も入ってきます。厳寒の中、懐に使い捨てカイロを入れ、厚めの服や防寒着を身にまとい、観光客などを一生懸命に温かくおもてなしをしました。



会場からの帰りに、「お陰様で雪まつりを楽しめました。ありがとう」「Thank you for enjoying the snow festival.」と一声かけてお帰りになる方々も。従事したお一人は、「案内業務はきついですが、この一言で苦勞が報われます」とお話しされていました。

●栄東の活動に秋元市長も評価

つど一む会場の開幕した初日、ウェルカム雪像では秋元克広・札幌市長の視察があり、制作にあたった栄東地区や東区緑化協力会などの方々との記念撮影が行われ、地下鉄栄町駅での歓迎・案内従事者への激励がありました。

開会式に主催者挨拶にたった同市長からは、栄東地区の雪像制作や地下鉄栄町駅での来場者の歓迎と案内事業について高い評価をいただきました。

これは雪像をつくって終わりではなく、12日間の会期中毎日午前7時から雪像に積もった雪を払ったり、傷んだ箇所を補修したり、メンテナンスを行いました。

過去12年間変わらず、常に良い状態で雪像を来場者の皆さんにご覧いただきたいという地道な活動がつど一む会場が一番人気があって一段と輝く雪像を支え、雪まつりの盛況を支えているのです。



●東区緑化協力会とコラボで雪像づくりが円滑に

今回の雪像づくりから、札幌市東区緑化協力会にご協力いただきました。ウェルカム雪像は、101体の小雪だるまの両サイドに「ピカチュウ」「招き猫」の2体の中雪像を配置しています。

この雪だるまを飾るひな壇は、幅約8.7メートル、奥行き2メートル、高さ1.6メートルの雪の塊から4段のステージを削りだすもので、ウェルカム雪像づくりでは一番労力のいる作業です。担い手の高齢化が進んでいますが、その課題を知った東区役所の橋渡しで同協力会とのコラボ（協働）が実現しました。

同会は造園関係の専門家集団であり、雪を削るチェーンソーはお手の物。正味3時間半余りで立派なひな壇が完成しました。地域と企業のコラボで作業の負担軽減とスピードアップができ、広く安定したひな壇で、メンテナンスも安全にできて従事したみなさんも大喜びでした。

